

第10回東村山駅西口公益施設運営検討会

日時:平成19年6月18日(月)第2委員会室 午後7:00~8:30

出席者:東村山駅西口公益施設運営検討会委員11名、市長、事務局4名

開会挨拶(会長)

市長挨拶

西口は市議市長選でも争点になったが、公益施設も含め、引き続き計画通りに推進していきたいと考えている。ご負担をおかけしているが、将来この施設があってよかったと思われるよう、皆様には活発な議論をお願いしたい。

出欠及び会議の公開

本日は公開会議とする。(傍聴者9名)

資料の説明(事務局)

内容

【健康増進機能について】

- ・ 宿題という形で委員より施設の機能や事業について、事前に提案していただいた。それを一覧にまとめたもの及び重複している意見や事業の対象者等を整理したものを資料にまとめたので、これに基づき議論進めたい。
- ・ 資料には公益施設の機能、事業、プログラムや提案と分類されているが、機能(健康増進、市民交流、市民利便、リラクゼーション、カフェ)は、公益施設の基本方針として、ほぼ固まっている。その機能における事業やプログラムとして何を実施するか等について、ご意見をいただきたい。
- ・ コンビニ型フィットネスは、通常のフィジカルフィットネスとは区分けして設けたほうがいいのか。
- ・ 必ずしも区分けをしなければ実施できないものではない。通常のフィジカルフィットネスの一部として行える事業ではないか。
- ・ 予算による制限などから、この提案事項のすべてを実現することは恐らく困難である。従って取捨選択していかなければならないが、その判断をするためにも、一つ一つ確認していき、同じ水準で議論を進めていく必要がある。
- ・ では、一つ目の身体測定器の導入からご説明をお願いしたい。
- ・ 健康増進機能に関して、マシンを導入することは、共通認識としてあると思う。身体測定器は200万円程度で導入でき、体脂肪、BMI、筋力量、内臓脂肪面積、栄養代謝、浮腫み等を測定できる。この施設は健康維持管理を主とするものであり、そのための一つとして考えられる。その他に、保健師や栄養士の相談

- とあわせて行うべきであり、保健師や栄養士の常駐は必要ではないか。
- ・ 測定の結果を受けて、運動指導を受けるという流れが必要である。そうでないと、素人判断で運動を行うことになり、あまり効果が望めないのではないか。
 - ・ コインマシンは、出勤時や退社時に短時間で寄っていくということをイメージして提案したもの。駅という立地を考えると、短時間で手軽に利用できるような形がいいと思う。
 - ・ 市民(特に通勤者)を対象としたものとするという意見も、この駅前という立地を踏まえての考え方である。
 - ・ ストレッチングコーナーは、通勤者が疲労を感じたときに、指導員のもと体を伸ばしてリラックスできればいいと考えて提案したもの。
 - ・ 高齢者、障害者向けの健康増進施設は、市内には無いと思う。病気や怪我の後、最後まで病院でリハビリを受けられなかった場合の機能回復や障害者向けのフィットネスなどの施設を設置したほうがいいと思い、提案した。
 - ・ トレーニングマシンには、一般のものと、高齢者用、機能回復用とでは、種類が異なるのか。
 - ・ 高齢者用と一般のものとは異なるものもある。例えば高齢者用には転倒防止機能が付加されていたりする。
 - ・ スペースから考えて、高齢者用と一般用の両方を設置できるのか。
 - ・ マシンを設置するのはスタジオ C ということになっているが、その広さからマシンの台数が制約されることになる。
 - ・ 山武の施設より、公益施設のマシンルームのほうが広いので、十分だと思う。
 - ・ 高齢者向けのパワーリハビリを目的とした施設は、グリーンボイスにある。一般のマシンに比べて低い負荷からできるようになっている。通常の成人がハードなトレーニングの目的で使用するには少し負荷が軽いようだが、通常の方が健康維持に使用したり、高齢者が機能回復のために使用するなど比較的幅広い層に使用が可能だと思う。個人が運動能力等をチェックし、専門家の指導を受けてトレーニングを行う必要があり、マンパワーとマシンの組合せが求められる。
 - ・ 西口公益施設のことばかり考えてしまうが、他の施設との役割を総合的に考えなければならない。公益施設には、駐車場がないことから、乳幼児と高齢者には使いにくい施設である。旧保健所なら駐車場を確保できる。駐車場や対象年齢を考えると、旧保健所と西口公益施設で棲み分けを図っていったらどうか。
 - ・ 保健所については、6月議会で買収の議決を受け、1階は社会福祉協議会、2階は子育て支援のための広場事業を展開することを考えている。
 - ・ 旧保健所に関しては託児機能の提案において関連性が出てくることになる。
 - ・ 旧保健所は、1階は年明け、2階は来年の4月にオープンの予定である。
 - ・ 山武市方式の活用については、利用者の定着率を考えると必要ではないか。万歩計やネットワークを利用した個人の運動データの管理システムは会員の定

着率を増加させる効果がある。

- ・ 山武では会員の数が減少していない。このシステムが寄与していると思う。
- ・ 費用対効果を考えると、一定の収益を見込める会員がポイントになる。
- ・ システムも重要であるが、スタッフの配置が問題となる。専門的なスタッフが、データや測定結果をうまく運動指導につなげていくことが必要である。
- ・ 指導は専門家が行うが、それをサポートできるようなボランティアを養成できないか。スタッフが1対1で長時間指導することはできない。一定の教育を受けた市民ボランティアが、マシンの使い方などの簡単なアドバイスを行うような形を実現していきたい。東村山の健康の拠点として機能を充実させる必要がある。
- ・ 類似例として、長野県の佐久市では、高齢者の年間の医療費が、一人当たり約20万円程度東村山より低かった。住民が必ず1年間保険推進委員をやるという決まりがあり、栄養や健康についてレクチャーを受けて、それを家族に広めるということを続けたらしい。

【市民交流機能について】

- ・ ホールは豪華な仕様にし、結婚披露パーティーなどにも使えるようにするというのは少し難しいように思う。
- ・ 豪華な使用ということについては、上限がない。
- ・ 162席の椅子は可動式と考えていいのか。
- ・ 可動式であり、立食パーティーなどにも使える。
- ・ 6人がけのテーブル付きでテーブル、27テーブル162席ということになる。
- ・ 市民センター別館の広い会議室に廊下をあわせたくらいの広さがある。
- ・ 舞台の設置も可能なのか。
- ・ 可能である。練馬のような舞台が参考になる。
- ・ コンベンションホールは、間仕切りができるようになっているのか。
- ・ なっている。
- ・ 映写機能があれば、子供たち向けや社会教育も含めた幅広い利用が検討できるようにするのではないか。
- ・ 簡易なものであれば、問題ない。レセプションなども行われることを考えると、必要性が高いと思う。

事業者との打ち合わせ

この施設の運営については、高い専門性が求められることから、ここでの議論をもとに、事業者から意見聴取を事務局でもらいたい。

次回 7月9日(月)午後7時00分～ 第2委員会室にて